資　料　１

神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望について

神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援を求めるため、令和７年度に引き続き、令和８年度においても次のとおり国への要望活動を実施する。

１　要　望　内　容

(1)　沿線地域住民の自立した日常生活や社会生活の確保、活発な地域間交流及び経済活動の維持等に必要不可欠な粟生線について、鉄道事業者の厳しい経営環境を踏まえた、粟生線の運行継続を可能とする長期的視野に立った財政支援

ア　少子高齢化や人口減少の進展等に加え、新型コロナウイルス以降の新たな生活様式の定着等の社会情勢の変化により、依然として厳しい利用状況が見込まれる鉄道事業者の経営環境においても運行サービス水準の確保・維持に必要な経費に対する直接的な財政支援を行うこと。

イ　粟生線の一部区間における利用者の多くは高校生や大学生などの学生であり、神戸電鉄は、それらの学生の利用について通常の定期運賃よりも割安な通学定期運賃で運行しているほか、障がい者の利用についても特別割引運賃で運行している。こうした通学定期や障がい者割引などの社会政策に係る費用を負担している鉄道については、その負担に対して財政支援を行うこと。

(2)　粟生線の安全運行に必要な予算の確保

鉄道安全輸送設備等の整備に対する支援制度を堅持・拡充するとともに、厳しい財政状況の中においても、沿線自治体が一体となって行う支援と協調し、国においても車両の新造更新を含め、安全運行に必要な予算を引き続き確実に確保すること。

(3)　人員確保への環境整備等及びＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）化の推進等に対する財政支援

近年深刻化している運転士をはじめとする人員不足について、粟生線の運行サービス水準の持続可能な提供の確保のため、国においても、引き続き人員確保への環境整備に努めるとともに、人材育成

への支援制度の確保さらには充実に努めること。

併せて、省人化の観点からも、現行の地域公共交通確保維持改善事業費補助における効率化・省力化に関する支援を今後も継続するとともに、日常的な保守点検業務の更なる効率化・省力化に資する画像解析による検査システムの開発等への支援など、補助制度を拡充すること。

(4)　粟生線の防災機能強化に対する支援

山間部における倒木等への事前防止対策をはじめ、激甚化・頻発化する自然災害への対策や災害復旧に対する支援制度の堅持・拡充により、将来にわたる粟生線存続を支援すること。

(5)　地域公共交通計画に基づく事業の推進に対する支援

地域公共交通確保維持改善事業による支援制度を堅持し、国において必要な予算を確保することにより、地域公共交通計画の策定、同計画に基づく事業の推進を支援すること。

２　要　望　者

神戸電鉄粟生線活性化協議会　会長　仲田　一彦

（兵庫県、神戸市、三木市、小野市及び神戸電鉄株式会社）

３　要望先（予定）

国土交通省総合政策局、鉄道局　ほか

４　要望時期（予定）

令和８年１０月下旬頃

神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する要望書

令和８年　　月

神戸電鉄粟生線活性化協議会

（神戸電鉄粟生線について）

神戸電鉄粟生線（以下「粟生線」という。）は、神戸市北区の鈴蘭台駅から小野市の粟生駅までを結ぶ全長 29.2km の鉄道路線で、沿線の神戸市、三木市、小野市及びその周辺市町の地域住民の通勤、通学をはじめ、自家用車を持たない高齢者等の通院その他外出にも利用されるなど、沿線地域の生活を支える重要な路線です。

特に、粟生線の一部区間においては、通学定期券の利用割合が高く、公共交通への依存度が極めて高い高校生を中心とした通学目的の利用が多くなっています。

また、北播磨地域の基幹駅である粟生駅でＪＲ加古川線や北条鉄道と接続し、ＪＲ山陽本線、東海道本線、福知山線その他の民間鉄道路線と相互補完の役割を果たす広域的な鉄道ネットワークの一部としての機能も担っています。

（粟生線の利用状況の見通しについて）

新型コロナウイルスの影響に伴う緊急事態宣言の発令等により、令和元年度には 784 万人であった粟生線の利用者数は、令和 2 年度には 596 万人（対前年度比△188 万人（△24.0％））にまで激減しました。

その後、利用者数は徐々に回復し、令和 7 年度の利用者数は 708 万人（対令和元年度比△76 万人（△9.7％））まで回復したものの、少子高齢化やモータリゼーションの進行のほか、自然災害や新型コロナウイルス蔓延防止措置以降の生活様式の変化などの社会情勢の影響も加わり、ピークであった平成 4 年度の 1,846 万人に比べ 1,138 万人の減（△61.7％）となっています。

利用者のさらなる回復の見通しは立っておらず、依然として厳しい利用状況が見込まれる中でも、現在においても 1 日に約 1 万 9 千人が利用しており、沿線地域の生活に必要不可欠な路線であることに変わりありません。

（粟生線の安全運行に必要な設備更新等について）

神戸電鉄株式会社による鉄道安全輸送設備等の更新及び改良については、安全運行の確保のため、国の支援を受け、兵庫県、神戸市、三木市及び小野市等が一体となって支援しています。

こうした支援により、これまで、神戸電鉄においては、新型車両の導入をはじめとして、老朽化車両の改良、軌間拡大防止のためのＰＣ（プレストレスト・コンクリート）枕木化の推進など、さまざまな取組を進めてまいりました。

今後は、これらの取組に加え、ＡＴＳ老朽化に伴う新たなシステムへの切り替え、変電所設備の更新やさらなる車両の新造更新なども予定されており、より一層多額の設備投資が必要となっています。

しかしながら、これまでも粟生線の収支が赤字の状況にある中、昨今は物価高騰、人件費上昇、金利上昇等により鉄道事業の経営環境は悪化しており、更に、地方自治体の財政についても厳しい状況が続いていることから、今後、安全運行に資する設備投資を十分に行えない懸念があります。

（人員不足への対応及びＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）化の推進について）

近年、全国的に人員不足が社会問題となっている中で、神戸電鉄においても運転士や技術職員を中心に人員不足が深刻化しており、早期の人員確保は喫緊の課題と言わざるを得ません。

このような課題に対し、神戸電鉄においては新卒採用やキャリア採用などの採用活動を積極的に実施しているところですが、現時点において十分な人員確保には至っていない状況です。

さらに、採用後においても運転業務に従事するためには、運転士の免許取得も必要となることから、鉄道事業者において、人材育成のために多くの時間と費用を要しており、さらには育成した人材の定着に苦慮している状況です。

人員確保が困難な状況においては、画像解析やＩＣ乗車券等の活用による鉄道施設、鉄道設備及び駅務機器等の日常的な保守点検業務の効率化・省力化、すなわち「ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）化」を図ることで、省人化を進めていく必要もあります。

これらの人員確保や人材育成へのさらなる支援、ＤＸ化が図られなければ、更なる経営状況の悪化を招くとともに、運行サービス水準や安全性を確保できない事態に陥るおそれがあります。

（粟生線の防災機能の強化について）

粟生線は広域的な鉄道ネットワークの一部として重要な位置を占めており、かつて甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災のような災害や不測の事故等の発生時において、他路線の代替機能の役割を担うなど、災害対策の観点からも極めて重要な路線です。

このため、広域的な鉄道ネットワークを担う粟生線を維持し、地域の安全・安心を守り抜くことは、鉄道事業者のみならず沿線地域の重要な責務であると考えます。

しかしながら、近年、山間部における倒木等への事前防止対策・対応にかかる負担の増加に加え、激甚化・頻発化する台風や豪雨などの自然災害の影響により、運休や災害復旧を余儀なくされるなど、経営環境は厳しさを増しています。

（神戸電鉄粟生線地域公共交通計画について）

地域の基幹交通である粟生線の利用者数の減少を鑑み、行政、交通事業者、地域住民等の関係者が一体となって粟生線の維持・活性化を図るため、平成 21 年に「神戸電鉄粟生線活性化協議会」を設立するとともに、「神戸電鉄粟生線地域公共交通総合連携計画」（平成 22 年 4 月～平成 29 年 3 月）や「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」（平成 29 年 4 月～令和 4 年 12 月）を策定し、計画に基づく事業を実施してきました。

令和 4 年 12 月には「神戸電鉄粟生線地域公共交通計画」を策定し、鉄道施設の更新・改良や駅環境の整備・強化等を行う「鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保」、まちづくりや観光との連携等を行う「まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築」、地域住民で組織する「粟生線サポーターズくらぶ」などを通じた利用促進等を行う「市民・行政・事業者等の連携による地域公共交通の活性化」を基本方針として位置付け、公共交通を中心としたまちづくりを図ることとしています。

特に、同計画においては、既存事業からの内容発展として、地域と連携した駅の美装化や、パーク＆ライドの利用促進等を掲げるとともに、新規事業として、サイクリングとの連携や高校生へのモビリティ・マネジメントを掲げる等、新たな利用者の確保にも向けて、現在、

同計画に基づく事業に取り組んでいるところです。
　引き続き、同計画に基づく事業を着実に推進し、粟生線をはじめとした地域公共交通の維持・活性化に取り組んでまいります。

　現在においても１日に約１万９千人が粟生線を利用しており、万が一にも粟生線が廃線となれば、自動車やバスだけでは輸送困難となり、日常の移動手段が奪われ、生活基盤にも大きな影響が生じます。
　こうしたことから、粟生線の維持・存続を図るためには、現在の利用促進活動や支援を継続することが不可欠な状況です。

　つきましては、下記の事項に格別の御高配を賜りますようお願いいたします。

記

(1)　沿線地域住民の自立した日常生活や社会生活の確保、活発な地域間交流及び経済活動の維持等に必要不可欠な粟生線について、鉄道事業者の厳しい経営環境を踏まえた、粟生線の運行継続を可能とする長期的視野に立った財政支援

ア　少子高齢化や人口減少の進展等に加え、新型コロナウイルス以降の新たな生活様式の定着等の社会情勢の変化により、依然として厳しい利用状況が見込まれる鉄道事業者の経営環境においても運行サービス水準の確保・維持に必要な経費に対する直接的な財政支援を行うこと。

イ　粟生線の一部区間における利用者の多くは高校生や大学生などの学生であり、神戸電鉄は、それらの学生の利用について通常の定期運賃よりも割安な通学定期運賃で運行しているほか、障がい者の利用についても特別割引運賃で運行している。こうした通学定期や障がい者割引などの社会政策に係る費用を負担している鉄道については、その負担に対して財政支援を行うこと。

(2)　粟生線の安全運行に必要な予算の確保

鉄道安全輸送設備等の整備に対する支援制度を堅持・拡充するとともに、厳しい財政状況の中においても、沿線自治体が一体となって行う支援と協調し、国においても車両の新造更新を含め、安全運行に必要な予算を引き続き確実に確保すること。

(3)　人員確保への環境整備等及びＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）化の推進等に対する財政支援

近年深刻化している運転士をはじめとする人員不足について、粟生線の運行サービス水準の持続可能な提供の確保のため、国においても、引き続き人員確保への環境整備に努めるとともに、人材育成への支援制度の確保さらには充実に努めること。

併せて、省人化の観点からも、現行の地域公共交通確保維持改善事業費補助における効率化・省力化に関する支援を今後も継続

するとともに、日常的な保守点検業務の更なる効率化・省力化に資する画像解析による検査システムの開発等への支援など、補助制度を拡充すること。

(4)　粟生線の防災機能強化に対する支援

山間部における倒木等への事前防止対策をはじめ、激甚化・頻発化する自然災害への対策や災害復旧に対する支援制度の堅持・拡充により、将来にわたる粟生線存続を支援すること。

(5)　地域公共交通計画に基づく事業の推進に対する支援

地域公共交通確保維持改善事業による支援制度を堅持し、国において必要な予算を確保することにより、地域公共交通計画の策定や同計画に基づく事業の推進を支援すること。

以上

令和８年　　月　　日

神戸電鉄粟生線活性化協議会　会長　仲田　一彦

兵 庫 県
神 戸 市
三 木 市
小 野 市
神戸電鉄株式会社

資料１　別紙

鉄道安全輸送設備等整備事業費補助金の推移及び今後の見通しについて

鉄道事業者が実施する安全性の向上に資する鉄道設備の更新・改良に要する経費については、国、県及び沿線市が鉄道安全輸送設備等整備事業費補助金などの補助制度により支援を行い、鉄道の安全で安定した輸送サービスの確保を図っている。

これまでにおいても、神戸電鉄が実施する車両の更新改良や軌間拡大防止のためのＰＣ（プレストレスト・コンクリート）枕木化の推進など、さまざまな取組に対し支援を行ってきた。

これらの取組に加え、今後は、車両の新造更新に加えてＡＴＳ老朽化に伴う新たなシステムへの切り替えなども予定されており、更なる支援が必要となっている。

※鉄道安全輸送設備等整備事業費補助金の推移

（単位：百万円）

区分	実績額								補助金申請予定額	
年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
国	617	315	194	253	281	283	447	668	529	687
県	150	124	88	67	110	90	142	293	205	224
神戸市	64	75	62	42	82	71	72	192	71	117
三木市	23	22	12	13	16	16	29	40	78	32
小野市	16	11	3	4	4	3	24	23	22	19
合　計	870	547	359	379	493	463	714	1,214	903	1,076

※補助金額は百万円未満切り上げで表示。
※端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある。
※令和３年度までの実績額については、「神戸電鉄粟生線地域公共交通計画」４６ページから転記。